

JAEF REPORT

令和8年4月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 第36回理事会を開催、令和8年度事業計画・予算を承認
- ◆ 自動車教材有効活用表彰制度を開始

- ◆ 令和7年度講師派遣実績
- ◆ 動画学習サイト「早わかり!クルマ塾」に15本のコンテンツ掲載

第36回理事会を開催、令和8年度事業計画・予算を承認

…3月16日

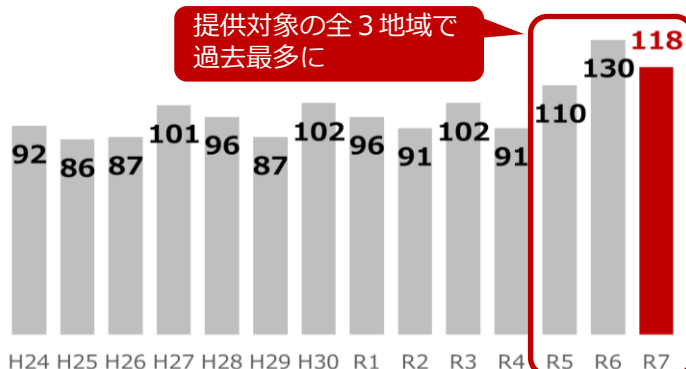
財団運営

財団は、3月16日に芝パークホテルにて第36回理事会を開催しました。同理事会では令和7年度の事業進捗状況が報告されると共に、令和8年度の事業計画・収支予算案等が承認されました。

令和5年度以降「自動車技術教育の抜本的強化」を掲げ、自動車産業に携わる将来の担い手の育成支援、若者が一層クルマに関心を持ってもらう取り組みを推進してきました。令和7年度までの3年間の成果として、自動車技術教育用教材の提供校数、技術系講師派遣(出前授業)の実施件数は、3年連続で過去最高の実績を収めることができました。

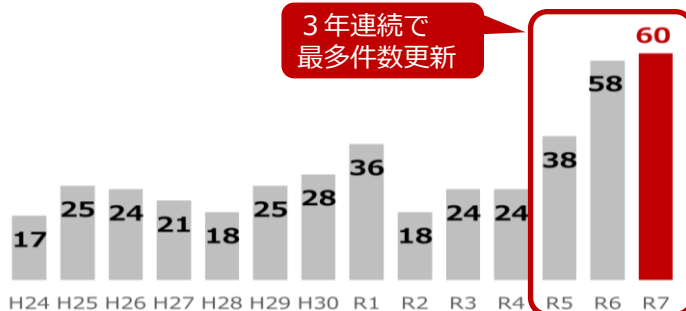
【技術教育用教材提供校数】

提供対象の全3地域で過去最多に



【技術系講師派遣実施件数】

3年連続で最多件数更新



令和7年度は、「活動成果の見える化、実効性の向上」にも努めてまいりました。講師派遣(出前授業)では、受講生徒に受講内容の理解度などを質すアンケートを開始しました。また、財団が提供する自動車技術教育用教材の活用促進策として、小・中学生対象の高校紹介イベントや出前授業で活用した事例を表彰する制度を新設しました。表彰対象校の好事例を他校にも展開し、ものづくり人材確保の一助とします。これらの詳細については、本レポート次頁以降でも報告しています。

その他にも教員向け研修会では、研修会で得た気づきやモチベーションの魅力などを生徒にも伝えてもらいやすいツール(受講レポート)を導入しました。

令和8年度は、上述の取り組みに加え「財団活動の更なる認知度向上」に注力します。高等学校の先生方とは教材目録贈呈式などの財団イベントにおいて適宜コミュニケーションを行っておりますが、まだまだ財団の各支援活動についてご存知でない方が多いのが現状です。そのため、各県の工業高校校長会での告知や全国高等学校長協会との連携による情報発信の強化を行います。加えて、これまで繋がりが無かった一般メディアに対しても関係構築・記事化促進を図る計画としています。

これらの実践を通じ、ものづくり人材の育成に邁進して参りたいと考えております。引き続き皆さまのご支援、ご協力を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。



▲第36回理事会の様子

INFORMATION

4~6月予定

- 理事会、評議員会を開催 5、6月
- 令和8年度JAEF研修会参加者募集開始 5月下旬~6月上旬
- 令和8年度自動車技術教育用教材提供の公募開始 6月上旬
- 令和8年度講師派遣を実施 4月~6月

自動車教材有効活用表彰制度を開始

…1月5日～

財団は、令和5年度より「自動車技術教育の抜本的強化」に、令和7年度より「活動成果の見える化、実効性の向上」に取り組んでいる。その一環として、財団が提供した自動車技術教育用教材を、小・中学生を対象とした「高校紹介」「出前授業」等に有効活用している高等学校を表彰する制度を開始した。

ものづくり人財を永続的に育成・確保すべく、小・中学生の段階からクルマへの興味関心を高めることを狙いとしている。表彰対象校の取り組み事例を財団HP等で公開し、他校における教材の有効活用の一助とする。

本年度表彰分の受付は今年1月から開始しており、これまでに3校より応募があった（3/23現在）。

【令和8年度表彰に関するスケジュール（予定）】

令和8年1月	応募開始
3月	応募締切
7～8月	審査（技術教育部会、審査委員会）
10月	表彰校発表
11月	表彰式開催（表彰校または近県会場）
12月	教材活用 好事例の公開



▲高校生による小・中学生向けイベントの様子（本表彰制度 今年度申込校とは無関係）

令和7年度講師派遣実績

研修

実施件数について

令和7年度の講師派遣実績は398件（前年度差 +35件）で、過去最多となった。参加者は、106,727名（同+1,122名）と前年度から増加した。

全398件の分野別内訳は以下の通り。

分野	件数	対象
1) 自動車技術	60	主に工業系の生徒
2) 交通安全	336	社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒
3) 環境・交通技術	2	生徒



▲山口県立田布施農工高等学校での講師派遣（自動車技術）の様子

1)自動車技術：計60件

最新技術：生徒対象	42
整備技術：生徒・教員対象	18

令和7年度の自動車技術講師派遣は60件に達し、3年連続で過去最多実績を更新した。要因としては、令和7年度新設メニュー「自動車整備の基礎」が好評を博し、全メニューで最多となる16件に達した他、従来メニューでも自動車の仕組みや最新技術について実車を用いながら丁寧に解説する研修内容に対し、一定の評価を得られていることが挙げられる。

令和7年度も通常の授業では得られない「観て 聴いて 触れて」の体験を通じ、クルマに対する興味関心の高揚に繋がる機会となった（受講生徒向けアンケートの結果は次頁参照）。

2)交通安全：計336件

ヘルメット着用の重要性	80
夜間の交通安全対策	28
ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	181
交通事故のリスクと損害保険の役割	19
自転車事故のリスクと損害保険の役割	24
二輪車（バイク）の交通安全	4

（次頁に続く）

(前頁より続く)

3)環境・交通技術：2件

環境技術：地球温暖化とモビリティ技術	2
交通技術：交通技術と社会の在り方	0

「交通安全」「環境・交通技術」の高評価率(※)は97%と、令和6年度に続き大変高い評価を得た。これは講師による地域データの活用や、きめ細やかな事前打合せの実施などによるものと考えられる。

※ 高評価率：受講申込された先生方からの実施報告書で5段階評価中「大変良かった」「良かった」の割合

講師については、全398件のうち396件を地元の自動車教育推進協議会メンバーに担当いただいた。

講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして深謝申し上げます。

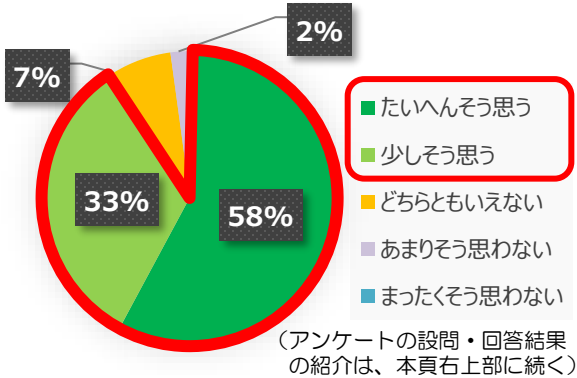
受講生徒アンケート結果について

財団では、当講師派遣活動の効果を定量的に把握すべく、令和7年度より受講生徒を対象としたアンケートを行っている。当年度累計で計126校22,503名から回答を得て、極めて顕著な成果が確認できている。

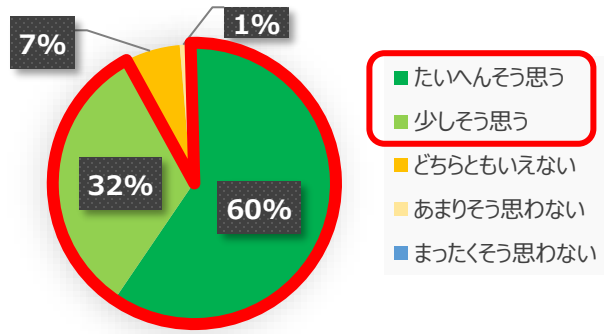
「自動車技術」「交通安全」分野の主な設問に対する回答は以下の通り。

1)自動車技術：計21校 607名

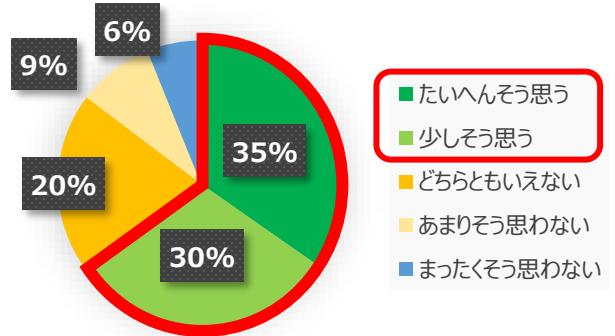
●受講後の「クルマ」に対する興味



●講師派遣はあなたの将来に役立つか

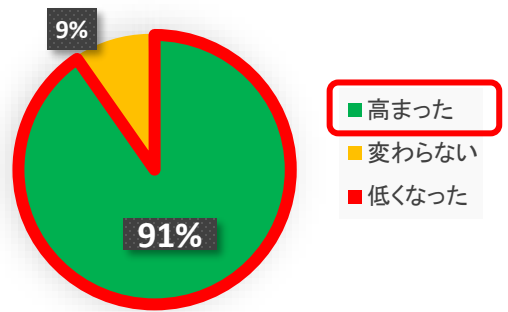


●受講後の「自動車関連」への進学・就職希望

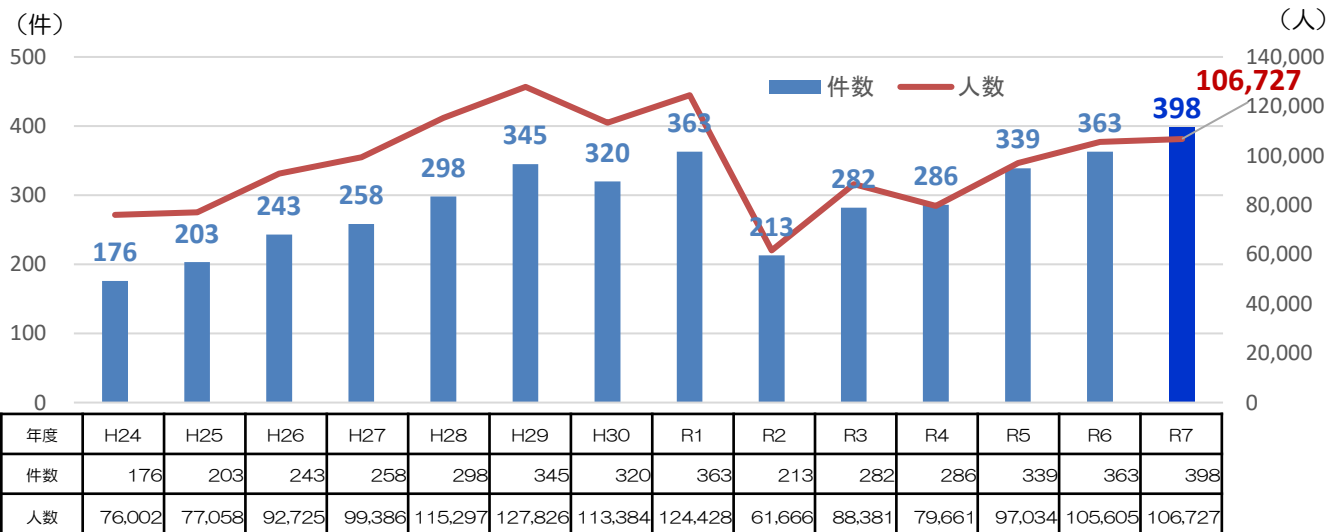


2)交通安全：計105校 21,896名

●受講後の安全に関する意識



【講師派遣推移(件数・参加人数)】



※平成24年度以降掲載

動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」に15本のコンテンツ掲載 …… 1~3月

普及啓発

財団は動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」内、3つのコーナーにて合計15本のコンテンツを掲載した。
(以下、動画タイトルに続く < >は掲載日)

1) 『人、クルマ、そして夢。』

交通コメンテーター 西村直人氏が自動車の最新技術などを解説するコーナーにて、自動運転関連をテーマとした2シリーズ計10本のコンテンツを掲載。

① 『人の感覚を起点にしたモビリティ社会を目指すDENSO (聴く編 vol.1、2)』 <1/20、27>

人がモビリティを通じて感じる「幸せ」について分析し、自動運転車内において豊かな時間を過ごすためのソフトや、新しいライフスタイルのデザインを提案

『 同 (体験編 vol.1、2)』 <2/3、10>

上述の聴く編で紹介した「幸せ体感アプリ」を西村氏が実際に街なかで体験する模様を紹介



▲ 『人の感覚を起点にしたモビリティ社会を目指すDENSO (体験編 vol.1)』より

② 『2027年に日産が実用化を目指す自動運転モビリティサービス (乗る編)』 <3/17>

日産自動車は横浜市と協力し、2017年度から自動運転モビリティサービスの実証実験を実施。

西村直人氏が実証実験車両に乗り込み、横浜市西区みなとみらいエリアの公道で自動運転走行を体験する模様を紹介。



『 同 (聴く編 vol.1、2、3)』 <vol.1・2 : 3/24, vol.3 : 3/31>

自動運転モビリティサービスの有用性、さらにサービスの広がりや海外での取り組みについて、最新技術動向と合わせ解説



▲ 『2027年に日産が実用化を目指す自動運転モビリティサービス (聴く編 vol.3)』より

2) 『最新のクルマ・交通情報』

: 財団による調査報告動画など

・ 『次世代モビリティの主役となるか!? 多様化する“特定小型原付”』

16歳以上なら免許がなくても乗れる特定小型原付。電動キックボード型以外にも様々なタイプが開発・製品化されているが、その安全上の課題を紐解く。

『1. “特定小型原付”とは』 <2/17>

特定小型原付とはどのような車両か、基本的な通行ルールと合わせて解説

『2. “特定小型原付”の課題』 <2/25>

特定小型原付が安全面で抱える課題について、関連する事故データから分析

『3. より安心・安全な“四輪型”特定小型原付』

<3/3>

特定小型原付メーカー「glafit(株)」取材の様子を紹介

『4. 特定小型原付の“健全な”普及に向けて』 <3/10>

特定小型原付の多様化が進む中、安心・安全な移動手段として今後普及していくための課題を深掘り



▲ 『次世代モビリティの主役となるか!? 多様化する“特定小型原付” 1. “特定小型原付”とは』より

3) 『交通安全トピックス』: 交通安全に関する旬な話題

・ 『16歳以上が対象！自転車の“青切符制度”とは』 <3/27>

令和8年4月からの自転車の青切符制度開始に伴い、解説動画を制作・公開。本制度導入の背景や取締対象となる違反行為事例などを分かりやすく紹介している。自転車乗用中の死傷者が最も多い年齢層(15~19歳)の中心にある高校生に対し、自転車利用時の交通ルール・マナー遵守の大切さを訴求。



※ 上記の他「予習編」<3/13>、「歴代車両編」<3/31>を公開